

Veritas NetBackup™ Appliance アップグレードガイド

リリース 2.7.2

モデル 5220、5230 および 5330

Red Hat Enterprise Linux (RHEL) オペレーティングシステム

VERITAS™

Veritas NetBackup™ Appliance アップグレードガイド - Red Hat Enterprise Linux (RHEL) オペレーティング システム

マニュアルバージョン: リリース 2.7.2

法的通知と登録商標

Copyright © 2015 Veritas Technologies LLC. All rights reserved.

Veritas、Veritas ロゴ、NetBackup は Veritas Technologies LLC または同社の米国とその他の国における関連会社の商標または登録商標です。その他の会社名、製品名は各社の登録商標または商標です。

この Veritas 製品には、サードパーティ(「サードパーティプログラム」)の所有物であることを示す必要があるサードパーティソフトウェアが含まれている場合があります。サードパーティプログラムの一部は、オープンソースまたはフリーソフトウェアライセンスで提供されます。本ソフトウェアに含まれる本使用許諾契約は、オープンソースまたはフリーソフトウェアライセンスでお客様が有する権利または義務を変更しないものとします。サードパーティプログラムについて詳しくは、この文書のサードパーティの商標登録の付属資料、またはこの Veritas 製品に含まれる TRIP ReadMe File を参照してください。

本書に記載する製品は、使用、コピー、頒布、逆コンパイルおよびリバースエンジニアリングを制限するライセンスに基づいて頒布されています。Veritas Technologies LLC からの書面による許可なく本書を複製することはできません。

Symantec Corporation が提供する技術文書は Symantec Corporation の著作物であり、Symantec Corporation が保有するものです。保証の免責: 技術文書は「現状のまま」で提供され、Symantec Corporation はその正確性や使用について何ら保証いたしません。Veritas Technologies LLC は、本書の提供、内容の実施、また本書の利用によって偶発的あるいは必然的に生じる損害については責任を負わないものとします。Symantec は事前の通知なく本書を変更する権利を留保します。

ライセンス対象ソフトウェアおよび資料は、FAR 12.212 の規定によって商業用コンピュータソフトウェアとみなされ、場合に応じて、FAR 52.227-19「Commercial Computer Software - Restricted Rights」、DFARS 227.7202 以下の「Commercial Computer Software and Commercial Computer Software Documentation」、その後継規制の規定により制限された権利の対象となり、Veritas による納品が内部設置型またはホスト型のサービスのいずれであるかは問いません。米国政府によるライセンス対象ソフトウェアおよび資料の使用、修正、複製のリリース、実演、表示または開示は、本使用許諾契約の条項に従ってのみ行われるものとします。

Veritas Technologies LLC
500 E Middlefield Road
Mountain View, CA 94043

<http://www.veritas.com>

テクニカルサポート

テクニカルサポートは、世界中にサポートセンターを有しています。テクニカルサポートの主な役割は、製品の特徴や機能に関する具体的な問い合わせに対応することです。テクニカルサポートグループは、オンラインナレッジベースのコンテンツも作成します。テクニカルサポートグループは、その他の部門と連携して、迅速にお客様の質問に回答します。

ベリタスが提供しているメンテナンスには、次のものが含まれます。

- 任意のサイズの組織に合わせた適切な量のサービスを選択できる柔軟性を備えた幅広いサポートオプション
- 迅速な応答と最新の情報を提供する、電話および/または **Web** によるサポート
- ソフトウェアアップグレードを配信するアップグレード保証
- 各地域の営業時間、または年中無休の **24 時間体制**のグローバルサポートを購入可能
- アカウント管理サービスを含むプレミアムサービスの提供

ベリタスが提供しているメンテナンスについて詳しくは、次の **URL** の **Web** サイトを参照してください。

www.veritas.com/support

すべてのサポートサービスは、お客様のサポート契約およびその時点でのエンタープライズテクニカルサポートポリシーに従って提供されます。

テクニカルサポートに連絡してください。

現在サポート契約のあるお客様は、次の **URL** でテクニカルサポートの情報にアクセスすることができます。

www.veritas.com/support

テクニカルサポートを連絡する前に、製品マニュアルに記載されているシステムの必要条件を満たしていることを確認してください。また、問題を再現する必要がある場合は、問題が起きたコンピュータの前にいるようにしてください。

テクニカルサポートに連絡するときは、次の情報を用意してください。

- 製品のリリースレベル
- ハードウェア情報
- 利用可能なメモリ、ディスク領域、NIC 情報
- オペレーティングシステム
- バージョンとパッチレベル

- ネットワークポロジ
- ルーター、ゲートウェイ、IP アドレス情報
- 問題の説明:
 - エラーメッセージとログファイル
 - テクニカルサポートに連絡する前に実行したトラブルシューティング
 - 最近のソフトウェア構成の変更とネットワークの変更

ライセンスと登録

製品で登録またはライセンスキーが必要になる場合は、次の URL にあるテクニカルサポート Web ページにアクセスしてください。

www.veritas.com/support

カスタマーサービス

カスタマーサービスの情報は次の URL で入手可能です。

www.veritas.com/support

カスタマーサービスを利用すると、次の問題のような非技術的な疑問に役立ちます。

- 製品のライセンスまたはシリアル化に関する疑問
- アドレス変更または名義変更のような製品登録の更新
- 製品の概要情報 (機能、使用可能な言語、販売窓口)
- 製品の更新とアップグレードについての最新情報
- アップグレード保証とサポート契約についての情報
- テクニカルサポートオプションについての助言
- 特別販売に関する非技術的な疑問
- CD-ROM、DVD、またはマニュアルに関連する問題

サポート契約のリソース

既存のサポート契約に関してベリタスに問い合わせる場合は、次に示す地域のサポート契約管理チームに連絡してください。

世界全域 (日本を除く)

CustomerCare@veritas.com

Japan (日本)

CustomerCare_Japan@veritas.com

目次

テクニカルサポート	4
第 1 章 概要	8
NetBackup Appliance バージョン 2.7.2 および Red Hat Enterprise Linux オペレーティングシステムへのアップグレードについて	8
第 2 章 アップグレードプラン	12
NetBackup アプライアンスをアップグレードするためのガイドラインおよび ベストプラクティス	12
第 3 章 アップグレード前のタスク	15
NetBackup Appliance バージョン 2.7.2 をアップグレードするためのアッ プグレード前のタスク	15
第 4 章 アップグレードの実行	20
アプライアンスのソフトウェアリリース更新をダウンロードする方法	20
NetBackup アプライアンス Web コンソールを使用した NetBackup Appliance へのソフトウェア更新のダウンロード	21
NetBackup アプライアンスへのソフトウェア更新の直接ダウンロー ド	21
クライアント共有を使用した NetBackup Appliance へのソフトウェア 更新のダウンロード	22
NetBackup アプライアンス Web コンソールを使用して NetBackup Appliance バージョン 2.7.x のインストール	26
NetBackup Appliance シェルメニューを使用して NetBackup Appliance バージョン 2.7.x のインストール	30
2.7.2 のアップグレード後のタスク	32
索引	34

概要

この章では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup Appliance バージョン 2.7.2 および Red Hat Enterprise Linux オペレーティングシステムへのアップグレードについて](#)

NetBackup Appliance バージョン 2.7.2 および Red Hat Enterprise Linux オペレーティングシステムへのアップグレードについて

NetBackup Appliance のソフトウェアバージョン 2.7.1 以降、Red Hat Enterprise Linux (RHEL) が SUSE Linux Enterprise Server (SLES) オペレーティングシステムの後継となります。以前のソフトウェアバージョンを現在使っている既存の 5220、5230、または 5330 Appliance は、バージョン 2.7.2 にアップグレードできます。場合によっては、バージョン 2.7.2 にするために 2 回のアップグレードが必要になることがあります。

メモ: NetBackup 5200 Appliance のバージョン 2.7.1 以降へのアップグレードはサポートされません。Intel コンポーネントが RHEL バージョン 6.6 以降でサポートされないためです。

このトピックでは、バージョン 2.7.2 へのアップグレード実施前に確認すべき以下の情報を取り扱います。

[「サポートされているアップグレード方法」](#)

[「アップグレードの前のプリフライトチェック」](#)

[「RHEL 用のサードパーティ製プラグイン」](#)

[「アップグレード中のアプライアンスの動作」](#)

[「アップグレードプロセス中の変更」](#)

「アップグレード後のタスク」

サポートされているアップグレード方法

以下は、サポートされているバージョン 2.7.2 へのアップグレードパスです。

- 直接アップグレード
バージョン 2.6.1、2.6.1.x、または 2.7.1 のソフトウェアを搭載した NetBackup 5220、5230、または 5330 Appliance は、直接バージョン 2.7.2 にアップグレードすることができます。
- 2 段階のアップグレードパス
バージョン 2.6.1 より前のソフトウェアを搭載した NetBackup 5220 または 5230 Appliance をバージョン 2.7.2 にするには、2 回アップグレードする必要があります。これらのシステムは、まずバージョン 2.6.1.2 にアップグレードしてから、バージョン 2.7.2 にアップグレードすることをお勧めします。

メモ: 2.6.1 およびそれ以前のバージョンのアプライアンスについては、『NetBackup Appliance アップグレードガイド - ソフトウェアリリース 2.6.1.2 - SUSE Linux Enterprise Server (SLES) オペレーティングシステム』のアップグレードの指示を参照してください。その後、このマニュアルを使用して、バージョン 2.7.2 にアップグレードしてください。

アップグレードの前のプリフライトチェック

バージョン 2.7.2 へのアップグレードを試みると、アップグレードスクリプトがプリフライトチェックを実行し、アプライアンスがアップグレードの準備を完了しているか否かを判断するため、複数のシステムパラメータを分析します。プリフライトチェックは発覚したことおよびアップグレードを続けても良いか否かに関する情報を提供します。プリフライトチェックによりアップグレードの要件を満たさない問題が発覚した場合、アップグレードに進むことはできません。アップグレードを実施する前に、報告されたすべての問題に対処する必要があります。

詳細は、次のトピックを参照してください:

p.15 の「[NetBackup Appliance バージョン 2.7.2 をアップグレードするためのアップグレード前のタスク](#)」を参照してください。

メモ: アプライアンスに Teradata バイナリがインストールされている場合は、バージョン 2.7.1 以降へのアップグレードがサポートされません。RHEL オペレーティングシステムでは現在これらのバイナリの使用がサポートされていません。プリフライトチェックでアプライアンスに Teradata バイナリが見つかった場合は、アップグレードは続行できません。

RHEL 用のサードパーティ製プラグイン

バージョン 2.6.1.2 以前のソフトウェアを搭載したすべての NetBackup Appliance は SLES バージョンのサードパーティ製プラグインを使っているため、バージョン 2.7.1 以降へのアップグレードには、これらのプラグインを適切な RHEL バージョンのものに置き換える必要があります。プリフライトアップグレードスクリプトで、見つからない必須の RHEL サードパーティプラグインが識別された場合、アップグレードは続行できません。

メモ: プリフライトアップグレードスクリプトは、アップグレードに必要なこれらのプラグインのみを識別します。バージョン 2.7.1 のリリース時に、RHEL と同等のプラグインの開発を完了していないサードパーティベンダーがいました。これらのベンダーの Web サイトを定期的に調べて、必要な追加のプラグインがないかチェックしてください。

インストールに関する詳細は、次のトピックを参照してください：

p.15 の「[NetBackup Appliance バージョン 2.7.2 をアップグレードするためのアップグレード前のタスク](#)」を参照してください。

アップグレード中のアプライアンスの動作

アップグレードの機能では、アップグレード処理が正常に完了したこと確認するために次の方法を実行します。

- 利用可能な更新が、現在インストールされているソフトウェアのバージョンより新しいかどうか判断されます。
- リリース更新をインストールするために利用できる領域がアプライアンスに十分あるかが判断されます。
- 現在アプライアンスでアクティブなプロセスを停止します。
- アクティブな NetBackup ジョブがあるかどうかを確認します。アクティブなジョブが検出されない場合にのみ、アップグレードプロセスが進行します。
必須の基準が満たされた場合のみ、アプライアンスのソフトウェアがアップグレードされ、バージョン番号が正しいリリースに更新されます。
- アップグレードプロセスのほとんどで、NetBackup アプライアンス Web コンソールにアクセスできないため、Web サービスを使用できません。この間にアップグレードの進捗を表示するには、NetBackup Appliance シェルメニューから次のコマンドを実行します。
Main > Manage > Software > UpgradeStatus
- 2.6.1 または 2.6.1.x から 2.7.x にアップグレードする場合、アプライアンスはアップグレードの進行中に 4 回再起動します。次に、各回の再起動で何を行うかを説明します。
 - 1 回目の再起動 - Red Hat Enterprise Linux (RHEL) オペレーティングシステムをインストールします。

- 2 回目の再起動 - 新しい RHEL オペレーティングシステムを使用してアプライアンスを初期化します。
- 3 回目の再起動 - アプライアンスの構成をリストアします。
- 4 回目の再起動 - RHEL オペレーティングシステムを使用してリストアされたアプライアンスの構成を初期化します。
最初の再起動の後、すべての再起動が完了するまでは NetBackup アプライアンス Web コンソールとサーバーへの SSH ベースの接続は利用できません。アプライアンスの構成が複雑なときは、この状態が 2 時間以上続く場合があります。この間、アプライアンスを再起動しないように注意してください。シマンテック社のリモート管理インターフェース(または IPMI)を使うと、システムの再起動の状態を表示できます。さらに、/log の下にログを表示したり、アップグレードプロセス完了時にアプライアンスが電子メールを送信するまで待機することもできます。
- 2.7.1 から 2.7.2 へのアップグレードの場合は、アップグレードの進行中にアプライアンスが 1 回再起動されます。再起動は、オペレーティングシステムおよびアプライアンスソフトウェアが正常に更新された後に発生します。
- アップグレードが完了する前に、自動的にセルフテストが実行されます。セルフテストが失敗した場合、セルフテストを再試行するか、前のバージョンにロールバックするかを確認されます。
- アプライアンスのアップグレードに成功すると、ファイバートランスポートメディアサーバー (FTMS) は自動的に再起動します。このため、SAN クライアントコンピュータがファイバートランスポート (FT) デバイスに再接続することを許可するためにファイバーチャネル (FC) ポートを再スキャンする必要があります。アップグレードの手順には、FC ポートの再スキャン方法に関する詳細が含まれています。

アップグレードプロセス中の変更

アップグレード中に、以下の変更が発生します。

- 2.6.1 または 2.6.1.x から 2.7.x にアップグレードする場合、Symantec Critical System Protection (SCSP) 機能がバージョン 6.5 に更新されて、名前が Symantec Data Center Security (SDCS) に変わります。詳しくは、次のトピックを参照してください。
p.32 の「[2.7.2 のアップグレード後のタスク](#)」を参照してください。

アップグレード後のタスク

アップグレードが正常に完了した後に、一部のオプションまたは構成設定が変更される場合があります。

アップグレード後に確認する必要がある項目のリストに関する詳細は、次のトピックを参照してください:

p.32 の「[2.7.2 のアップグレード後のタスク](#)」を参照してください。

アップグレードプラン

この章では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup アプライアンスをアップグレードするためのガイドラインおよびベストプラクティス](#)

NetBackup アプライアンスをアップグレードするためのガイドラインおよびベストプラクティス

このトピックでは、アプライアンスソフトウェアのアップグレードを計画する際に参照すべきガイドラインとベストプラクティスについて説明します。アプライアンスのアップグレードを準備する際に、またアップグレードで問題が発生する状況を回避するために、次の情報を活用してください。

アップグレードの推定所要時間

アプライアンスのアップグレードの推定所要時間を判断するには、[表 2-1](#) のさまざまなアップグレードシナリオを参照してください。

表 2-1 アップグレードシナリオと関連する推定所要時間

モデル	アップグレードパス	推定基本時間	追加で考慮すべき時間
5220	2.6.1, 2.6.1.x -> 2.7.2	3 時間から 3.5 時間	<ul style="list-style-type: none"> ■ マスターサーバーのアップグレードに追加で 30 分。 ■ 以前にバージョン 2.0.x、2.5.x、2.6.0.1 からアップグレードされているアプライアンスの場合、追加で 30 分。
	2.7.1 -> 2.7.2	1.5 時間から 2 時間	

モデル	アップグレードパス	推定基本時間	追加で考慮すべき時間
5230	2.6.1、2.6.1.x -> 2.7.2	2.5 時間から 3 時間	<ul style="list-style-type: none"> ■ マスターサーバーのアップグレードに追加で 15 分。
	2.7.1 -> 2.7.2	1.5 時間から 2 時間	<ul style="list-style-type: none"> ■ 以前にバージョン 2.5.4 または 2.6.0.1 からアップグレードされているアプライアンスの場合、追加で 30 分。 ■ 複数の Veritas Storage Shelf ユニットが接続されたアプライアンスの場合、追加で 15 分。
5330	2.6.1、2.6.1.x -> 2.7.2	2.5 時間から 3.25 時間	拡張ストレージセルフユニットが接続されたアプライアンスの場合、各ユニットごとに追加で 15 分。
	2.7.1 -> 2.7.2	1.5 時間から 2 時間	
			<p>すべてのアップグレードシナリオで、必要に応じて次の内容を含めてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ マスターサーバーでの 350,000 ジョブごとに 10 分を追加する。たとえば、100 万レコードのジョブリストでは、マスターサーバーに対して 30 分を追加する。 ■ 構成した 250 の VLAN ごとに 5 分を追加する。

アップグレードのガイドライン

アップグレードを開始する前に、次のガイドラインを確認してください。

- 現在、アプライアンス環境でソフトウェアバージョン 2.6.1、2.6.1.1、2.6.1.2、または 2.7.1 を使用していることを確認する。これらのバージョンのみがバージョン 2.7.2 への直接アップグレードをサポートします。
- アップグレードする前に必ず完全なディザスタリカバリ (DR) バックアップを実行します。
- 新しいソフトウェア更新のために十分な容量を確保するために、アップグレードする前に、以前にダウンロードしたリリースの更新、クライアントパッケージ、およびクライアントアドオンのすべてをアプライアンスから削除します。ベストプラクティスとして、すべ

てのアプライアンスおよびクライアントをアップグレードした後に、ダウンロードしたパッケージを必ず削除してください。アップグレードするアプライアンスにアプライアンスのバージョン 2.6.0.1 がインストールされている場合、クライアントパッケージを削除するには別の方法が必要です。

p.15 の「[NetBackup Appliance バージョン 2.7.2 をアップグレードするためのアップグレード前のタスク](#)」を参照してください。

- アプライアンスの場合も、従来の NetBackup のアップグレードと同じアップグレードの順序に従います。常にマスターサーバーアプライアンスの更新から始めて、次にすべてのメディアサーバーアプライアンスをアップグレードします。
- 複数のメディアサーバーをアップグレードする場合は、個別のメディアサーバーごとにアップグレードプロセスを実行する必要があります。
- 従来の NetBackup マスターサーバーがメディアサーバーアプライアンスとともに使われる場合、そのマスターサーバーの NetBackup にはメディアサーバーアプライアンスと同じか、それ以降のバージョンが必要です。たとえば、メディアサーバーアプライアンスを NetBackup Appliance バージョン 2.7.2 にアップグレードする前に、まずマスターサーバーを NetBackup バージョン 7.7.2 にアップグレードします。
- アプライアンスのメディアサーバーアップグレードの間、NetBackup マスターサーバーがアクティブで動作していることを確認します。さらに、NetBackup のプロセスがマスターサーバーとメディアサーバーの両方で開始され、実行されていることを確認します。

メモ: アップグレード中は NetBackup サービスのみをアクティブにする必要があります。アップグレード中はすべてのジョブを停止しているか、一時停止しているか、または実行を阻止している必要があります。

p.15 の「[NetBackup Appliance バージョン 2.7.2 をアップグレードするためのアップグレード前のタスク](#)」を参照してください。

- NetBackup クライアントではアプライアンスと同じか、またはそれ以前のソフトウェアバージョンを使用する必要があります。クライアントはアプライアンスよりも新しいバージョンでは動作できません。たとえば、NetBackup バージョン 2.7.2 のクライアントは、バージョン 2.7.2 以降のアプライアンスサーバーのみで使用できます。クライアントのアドオンもクライアントバージョンと同じにする必要があります。

アップグレード前のタスク

この章では以下の項目について説明しています。

- **NetBackup Appliance** バージョン 2.7.2 をアップグレードするためのアップグレード前のタスク

NetBackup Appliance バージョン 2.7.2 をアップグレードするためのアップグレード前のタスク

バージョン 2.7.2 にアップグレードするための準備を行うには、アップグレード対象の各アプライアンスに関して、次のタスクを実行する必要があります。

「すべてのバックアップジョブを停止して、ソフトウェアのセルフテストを実行する。」

「以前にダウンロードしたリリースの更新、クライアントパッケージ、およびクライアントアドオンを削除する」

「必要なサードパーティプラグインを入手する」

「構成ボリュームサイズの増加」

「新しいペリタスサーバーのファイアウォール規則を更新する」

すべてのバックアップジョブを停止して、ソフトウェアのセルフテストを実行する。

プリフライトチェックでアクティブなジョブがないことを確認する。アップグレードを成功させるために、次のことを行う必要があります。

- 管理者として **NetBackup** 管理コンソールにログオンします。
- マスターサーバーをアップグレードする前に、すべてのジョブおよび SLP (ストレージライフサイクルポリシー) を一時停止します。
- メディアサーバーをアップグレードする前に、現在動作しているすべてのジョブを停止し、アップグレード中に開始される可能性のあるジョブを一時停止します。アップグレード中にメディアサーバーでジョブが開始されないようにする必要があります。

NetBackup Appliance バージョン 2.7.2 をアップグレードするためのアップグレード前のタスク

- すべてのジョブが停止または一時停止され、すべての SLP が一時停止された後、検証テストのために **NetBackup Appliance** シェルメニューから次のコマンドを実行します。
 - Support > Test Software
ソフトウェアセルフテストの結果で、**Pass** が表示される必要があります。

メモ: このコマンドは、/tmp ディレクトリでバックアップおよび復元テストを実行します。アップグレードするアプライアンスの /tmp ディレクトリが **NetBackup** エクスクルードリストに含まれている場合、セルフテストコマンドを実行する前に、このディレクトリをリストから削除する必要があります。削除しなかった場合、セルフテストは失敗します。

以前にダウンロードしたリリースの更新、クライアントパッケージ、およびクライアントアドオンを削除する

バージョン 2.7.2 のインストールのために十分な容量を確保するために、アップグレードする前に、以前にダウンロードしたリリースの更新、クライアントパッケージ、およびクライアントアドオンのすべてをアプライアンスから削除する必要があります。アップグレードするアプライアンスにアプライアンスのバージョン 2.6.0.1 がインストールされている場合、クライアントパッケージを削除するには別の方法が必要です。

以前にダウンロードしたパッケージを削除しておらず、アプライアンスの /inst ディレクトリに十分な空き領域がない場合、プリフライトチェックで問題が通知され、アップグレードできません。

メモ: ベストプラクティスとして、すべてのアプライアンスおよびクライアントをアップグレードした後に、ダウンロードしたパッケージを必ず削除してください。

次の表で、バージョン 2.6.0.1 がインストールされていないアプライアンスのパッケージの削除方法を説明します。バージョン 2.6.0.1 がインストールされているアプライアンスの場合は、表の下に表示されている情報を参照してください。

表 3-1 以前にダウンロードしたリリースの更新、クライアントパッケージ、およびクライアントアドオンを削除する(バージョン 2.6.0.1 がインストールされていないアプライアンスの場合)

NetBackup アプライアンス Web コンソール	NetBackup Appliance シェルメニュー
<ul style="list-style-type: none"> ■ アップグレードするアプライアンスで、NetBackup アプライアンス Web コンソールを使用してログオンします。 ■ [管理 (Manage)]、[ソフトウェアの更新 (Software updates)]の順に選択します。 ■ [ダウンロードしたソフトウェア更新 (Downloaded Software Updates)]表で、リスト内のリリースの更新、クライアントパッケージ、またはクライアントのアドオンの左にあるラジオボタンをクリックし、[削除 (Delete)]をクリックします。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ アップグレードするアプライアンスで、NetBackup Appliance シェルメニューを使用してログオンします。 ■ すべてのダウンロードしたリリースの更新およびクライアントパッケージの一覧を表示するには、次のコマンドを入力します。 Manage > Software > List Downloaded ■ ダウンロードした各リリースの更新およびクライアントパッケージを削除するには、次のコマンドを入力します。 Manage > Software > Delete update_name ここで、update_name はリリースの更新またはクライアントパッケージのファイル名です。 ■ すべてのダウンロードしたクライアントのアドオンの一覧を表示するには、次のコマンドを入力します。 Manage > Software > List AddOns ■ ダウンロードした各クライアントのアドオンを削除するには、次のコマンドを入力します。 Manage > Software > Rollback eeb_name ここで、eeb_name はクライアントのアドオンのファイル名です。 <p>メモ: クライアントのアドオンのファイル名を入力する場合は、.rpm 拡張子を含めないでください。</p>

バージョン 2.6.0.1 を使用していたアプライアンスの場合

アップグレードするアプライアンスにアプライアンスのバージョン 2.6.0.1 がインストールされている場合、それ以降のバージョンにアップグレードしても、アプライアンスにこのバージョンのクライアントパッケージが残ります。バージョン 2.6.0.1 のアプライアンスを購入した場合や、バージョン 2.6.0.1 にアップグレードした場合は、次のタスクを実行して 2.6.0.1 クライアントパッケージを削除する必要があります。唯一の例外は、アプライアンスが 2.6.0.1 以外のバージョンに再イメージ処理されている場合です。

アプライアンスからバージョン 2.6.0.1 のクライアントパッケージを削除するには

NetBackup Appliance バージョン 2.7.2 をアップグレードするためのアップグレード前のタスク

- ベリタスアプライアンスソフトウェアの更新リリースページを Web ブラウザで開くか、またはその SSH セッションを開きます。
- 以降のバージョンのクライアントパッケージをアプライアンスにダウンロードしてインストールします。
- NetBackup Appliance シェルメニューから新しくインストールしたクライアントパッケージを削除します。この処理によって、2.6.0.1 クライアントパッケージも削除されます。

メモ: NetBackup アプライアンス Web コンソールからクライアントパッケージを削除することはできません。

必要なサードパーティプラグインを入手する

バージョン 2.6.1 または 2.6.1.x から 2.7.2 にアップグレードする前に、既存の SUSE Linux Enterprise Server (SLES) のサードパーティプラグインを適切な Red Hat Enterprise Linux (RHEL) バージョンに変更する必要があります。変更しなかった場合、プリフライトアップグレードスクリプトでアップグレードを開始できません。すでにバージョン 2.7.1 にアップグレードされているアプライアンスの場合、以前は利用できなかったサードパーティ製プラグインの一部が利用できるようになっている可能性があります。

RHEL プラグインをインストールするには、以下の手順を実行します。

- 以下のベンダー Web サイトから適切な RHEL プラグインを見つけます。
 - <http://www.cleversafe.com>
 - <http://www.datadomain.com/products>
 - <http://www.dell.com>
 - <http://www.emc.com>
 - <http://www.exagrid.com>
 - <http://www.falconstor.com/en/pages/?pn=VTL>
 - <http://www.fujitsu.com/global>
 - <http://www.getgreenbytes.com>
 - <http://www.hds.com>
 - <http://www.hp.com/go/ebs>
 - <http://www.huawei.com>
 - <http://www.ibm.com>
 - <http://www.necam.com/HYDRAsTOR>
 - <http://www.nexenta.com>
 - <http://www.oracle.com>
 - <http://www.quantum.com>
 - <http://www.sepaton.com>
 - <http://www.symantec.com/business/theme.jsp?themeid=nbu-appliance>

NetBackup Appliance バージョン 2.7.2 をアップグレードするためのアップグレード前のタスク

その他のサードパーティプラグインも使用している場合は、同様に適切な RHEL バージョンに変更する必要があります。詳細については、該当ベンダーの **Web** サイトを確認してください。

- **NetBackup Appliance** シェルメニューから次の共有ディレクトリを開きます。Manage > OpenStorage > Share > Open
このコマンドは、**NFS** の場合は /inst/plugin/incoming 共有ディレクトリを、**Windows** の場合は %incoming_plugins 共有ディレクトリを開きます。これらの場所に必要なプラグインをコピーします。
- Manage > OpenStorage > Share > Close で共有ディレクトリを閉じます。

メモ: 2.6.1 または 2.6.1.x からアップグレードする場合、RHEL プラグインパッケージを共有ディレクトリにコピーして、共有ディレクトリを閉じた後、Manage > OpenStorage > List Available コマンドを実行しないでください。現在の 2.6.x SUSE アプライアンスコードは、RHEL プラグインパッケージを無効としてフラグ付けします。これは、パッケージの命名規則が SUSE と Red Hat 環境で異なるためです。アプライアンスは SLES で実行中のため、List Available コマンドは共有ディレクトリから RHEL プラグインパッケージを削除し、アップグレードの妨げになります。

構成ボリュームサイズの増加

2.7.x にアップグレードすると、mongoDB が構成ボリュームに移動します。構成ボリュームに mongoDB を格納するのに必要な容量がない場合、アップグレードは失敗します。この問題を回避するには、次のように、アップグレードの前に構成ボリュームサイズを大きくします。

- **NetBackup Appliance** シェルメニューからアプライアンスにログオンします。
- Main_Menu > Manage > Storage と入力して、次のコマンドを実行します。
Resize Configuration 50GB

新しいベリタスサーバーのファイアウォール規則を更新する

シマンテック社からのベリタスの独立に伴い、NetBackup Appliance 環境に影響する重要なサーバーの変更が行われました。これらの変更は SORT、NetBackup Product Improvement Program、アプライアンス登録、および AutoSupport に影響します。ファイアウォールの設定とプロキシ設定に応じて、既存の機能の保守を行うために更新が必要となることがあります。このような変更の情報については、ベリタスのサポート Web サイトで次の Tech Alert を参照してください。

<https://www.veritas.com/docs/INFO2803>

アップグレードの実行

この章では以下の項目について説明しています。

- [アプライアンスのソフトウェアリリース更新をダウンロードする方法](#)
- [NetBackup アプライアンス Web コンソールを使用して NetBackup Appliance バージョン 2.7.x のインストール](#)
- [NetBackup Appliance シェルメニューを使用して NetBackup Appliance バージョン 2.7.x のインストール](#)
- [2.7.2 のアップグレード後のタスク](#)

アプライアンスのソフトウェアリリース更新をダウンロードする方法

NetBackup のアプライアンスソフトウェアリリース更新はベリタスのサポート Web サイトから入手できます。アプライアンスのソフトウェアおよびクライアントパッケージは NetBackup アプライアンス Web コンソールまたは NetBackup Appliance シェルメニューからダウンロードできます。アップグレードを開始する前に、更新をアプライアンスに最初にダウンロードする必要があります。

以降では、アプライアンスのソフトウェアリリース更新をダウンロードする場合に使用する方法について説明します。

- p.21 の「[NetBackup アプライアンス Web コンソールを使用した NetBackup Appliance へのソフトウェア更新のダウンロード](#)」を参照してください。
- p.21 の「[NetBackup アプライアンスへのソフトウェア更新の直接ダウンロード](#)」を参照してください。
- p.22 の「[クライアント共有を使用した NetBackup Appliance へのソフトウェア更新のダウンロード](#)」を参照してください。

NetBackup アプライアンス Web コンソールを使用した NetBackup Appliance へのソフトウェア更新のダウンロード

NetBackup アプライアンス Web コンソールを使用してアプライアンスにソフトウェアリリース更新をダウンロードするには、次の手順を使用します。

NetBackup アプライアンス Web コンソールを使用してアプライアンスにソフトウェアリリース更新をダウンロードするには

- 1 Web ブラウザを開いて、**NetBackup アプライアンス Web コンソール**でアプライアンスにログオンします。
- 2 [管理 (Manage)]、[ソフトウェアの更新 (Software updates)]の順に選択します。
- 3 [ソフトウェア更新 (Software Updates)]ページの[ダウンロードしたソフトウェア更新 (Downloaded Software Updates)]テーブルで、ソフトウェア更新がまだダウンロードされていないことを確認します。
 - インストールするソフトウェア更新がテーブルにある場合、次のソフトウェアインストールに進みます。
 - インストールするソフトウェア更新がテーブルにない場合、次の手順に進みます。
- 4 ページの[オンラインのソフトウェア更新 (Online Software Updates)]テーブルで、ソフトウェア更新を選択し、[ダウンロード (Download)]をクリックします。

[ダウンロードの進捗 (Download Progress)]列にダウンロードの状態が表示されます。ダウンロードが正常に完了すると、ソフトウェア更新が[ダウンロードしたソフトウェア更新 (Downloaded Software Updates)]テーブルの[利用可能なソフトウェアの更新名 (Available Software Update)]列に表示されます。

前の手順で記述されているようにソフトウェアインストールを続行します。

NetBackup アプライアンスへのソフトウェア更新の直接ダウンロード

この手順を使用するには、ベリタスのサポート Web サイトからファイルやパッケージをダウンロードするためのインターネットアクセスがアプライアンスに必要です。

ソフトウェアのリリース更新をアプライアンスに直接ダウンロードするには

- 1 **NetBackup Appliance** シェルメニューを使用し、管理者として SSH セッションを開き、アプライアンスにログオンします。
- 2 ソフトウェアの更新がベリタスのサポート Web サイトから利用可能かどうかを確認するには、次のコマンドを入力します。

```
Main_Menu > Manage > Software > List AvailablePatch
```

- 3 利用可能なソフトウェアの更新またはクライアントパッケージをダウンロードするには、次のような適切なコマンドを入力します。
 - アプライアンスサーバー更新の場合:

```
Main_Menu > Manage > Software > Download
```

```
SYMC_NBAPP_update-<release-version>.x86_64.rpm
```

release はソフトウェアのリリース番号、**version** はソフトウェアのリリースのバージョン番号です。たとえば、

```
Main_Menu > Manage > Software > Download
```

```
SYMC_NBAPP_update-2.7.1-1.x86_64.rpm
```

- **UNIX** クライアントパッケージの場合

```
Main_Menu > Manage > Software > Download
```

```
SYMC_NBAPP_addon_nbclient_<platform>-<release>-<date>.x86_64.rpm
```

<platform> はクライアントプラットフォームのオペレーティングシステム、**<release>** はソフトウェアのリリース番号、**<date>** は NetBackup クライアントパッケージの日付です。

たとえば、

```
Main_Menu > Manage > Software > Download
```

```
SYMC_NBAPP_addon_nbclient_Solaris-7.7.1-20150910.x86_64.rpm
```

- **Windows** クライアントパッケージの場合

```
Main_Menu > Manage > Software > Download
```

```
SYMC_NBAPP_addon_nbwin-<release>-<date>.x86_64.rpm
```

<release> はソフトウェアのリリース番号、**<date>** は NetBackup クライアントパッケージの日付です。

たとえば、

```
Main_Menu > Manage > Software > Download
```

```
SYMC_NBAPP_addon_nbwin-7.7.1-20150910.x86_64.rpm
```

4 rpm が正常にダウンロードしたこと確認するためには、次のコマンドを入力します。

```
Main_Menu > Manage > List Downloaded
```

p.21 の「[NetBackup アプライアンス Web コンソールを使用した NetBackup Appliance へのソフトウェア更新のダウンロード](#)」を参照してください。

クライアント共有を使用した NetBackup Appliance へのソフトウェア更新のダウンロード

CIFS や NFS のクライアント共有を使用してアプライアンスにソフトウェアリリース更新またはクライアントパッケージをダウンロードするには、この手順を使用します。

メモ: アプライアンスに直接ソフトウェア更新をダウンロードすることに失敗した場合は、この方法を使って、アプライアンス上にアプライアンスのソフトウェアのリリース更新またはクライアントパッケージをダウンロードできます。

アプライアンスとインターネットに接続済みであるコンピュータからこの手順を実行します。ベリタスのサポート Web サイトからファイルやパッケージをアプライアンスにダウンロードするにはインターネットアクセスが必要です。

CIFS または NFS のクライアント共有を使用してアプライアンスにソフトウェアリリース更新またはクライアントパッケージをダウンロードするには:

- 1 **NetBackup Appliance** シェルメニューを使用し、管理者として SSH セッションを開き、アプライアンスにログオンします。

- 2 **NFS または CIFS 共有を開くには、次のコマンドを入力します。**

Main_Menu > Manage > Software > Share Open

- 3 アプライアンス共有ディレクトリを次のようにマップまたはマウントします。

- **Windows CIFS 共有**

```
¥¥<appliance-name>¥incoming_patches
```

- **UNIX NFS 共有**

```
mkdir -p /mount/<appliance-name>
```

```
mount <appliance-name>:/inst/patch/incoming
```

```
/mount/<appliance-name>
```

- 4 この手順では、リリース更新パッケージとクライアントパッケージのパッケージファイル名について説明します。名前を確認したら、引き続き残りの手順を実行してファイルをダウンロードします。

- **リリースの更新**

```
NB_Appliance_N_<release-version>.x86_64-tar-split.1of3
```

```
NB_Appliance_N_<release-version>.x86_64-tar-split.2of3
```

```
NB_Appliance_N_<release-version>.x86_64-tar-split.3of3
```

<release> はソフトウェアのリリース番号、<version> はソフトウェアのリリースのバージョン番号です。例: 2.7.2-1.

ダウンロードされたリリース更新パッケージの MD5 または SHA1 チェックサムが、ベリタスサポート Web サイトに掲載されているものと同じであることを確認するには、次の手順を実行します。

- リリース更新とクライアントパッケージがあるベリタスサポートサイトの以下の URL を入力します。
https://www.veritas.com/content/support/en_US/58991.html
- [方法...]セクションで、掲載されているソフトウェアアップデートのダウンロードリンクをクリックします。
- [README]ページの右側の列で[添付ファイル]をクリックします。
- ポップアップウィンドウに表示されているチェックサムが、ダウンロードされたファイルのチェックサムと一致することを確認します。

- クライアントパッケージ
 SYMC_NBAPP_addon_nbwin_<release>-<date>.x86_64.rpm または
 SYMC_NBAPP_addon_nbclient_<platform>-<release>-<date>.x86_64.rpm
 <platform> はクライアントプラットフォームのオペレーティングシステム、<release>
 はソフトウェアのリリース番号、<date> は NetBackup クライアントパッケージの
 日付です。たとえば、
 SYMC_NBAPP_addon_nbclient_HP-UX-IA64-release-20150910.x86_64.rpm

5 次のいずれかのコマンドを使ってリリースの更新 .rpm ファイルを結合 (抽出) します。

- Windows の場合:
 copy /b NB_Appliance_N_<release-version>.x86_64-tar-split.1of3+
 NB_Appliance_N_<release-version>.x86_64-tar-split.2of3+
 NB_Appliance_N_<release-version>.x86_64-tar-split.3of3+
 NB_Appliance_N_<release-version>.tar

メモ: このコマンドは 1 つの文字列として入力する必要があります。名前の唯一のスペースが .3of3 の後にあることを確認してください。また、<release> はソフトウェアのリリース番号、<version> は投稿されたバージョンの番号です。

Windows WinRAR コーティリティを使って、NB_Appliance_N_<release-version>.tar ファイルを解凍します。生成されるファイルは次のとおりです。

- SYMC_NBAPP_update-<release-version>.x86_64.rpm
- update.rpm.md5_checksum
- update.rpm.shal_checksum
- UNIX の場合:
 cat
 NB_Appliance_N_<release-version>.x86_64-tar-split.1of3<space>
 NB_Appliance_N_<release-version>.x86_64-tar-split.2of3<space>
 NB_Appliance_N_<release-version>.x86_64-tar-split.3of3 | tar
 xvf -
 <release> はソフトウェアのリリース番号、<version> はソフトウェアのリリースのバージョン番号です。例: 2.7.x-1.

メモ: このコマンドは 1 つの文字列です。この例では、各パッケージ間にスペース「<space>」が 1 つあります。

生成されるファイルは次のとおりです。

- SYMC_NBAPP_update-<release-version>.x86_64.rpm
- update.rpm.md5_checksum
- update.rpm.shal_checksum

メモ: UNIX システムでパッケージを抽出するには、ベリタスは tar の代わりに 1.16 以上の GNU の tar バージョンを使うことを推奨します。イメージの抽出について詳しくは、次の TechNote を参照してください。

<https://www.veritas.com/docs/TECH154080>

- 6** UNIX システムの場合、次のいずれかのコマンドを実行して .rpm ファイルのチェックサム値を計算します。

```
md5sum SYMC_NBAPP_update-<release-version>.x86_64.rpm または sha1sum  
SYMC_NBAPP_update-<release-version>.x86_64.rpm.
```

チェックサム値が update.rpm.md5_checksum ファイルまたは update.rpm.shal_checksum ファイルの内容と一致していることを確認します。

- 7** このリリースの更新またはクライアントパッケージの .rpm をマウント済みの共有にコピーします。

メモ: コピー処理の間はアプライアンスでコマンドを実行しないでください。コマンドを実行すると、コピー操作が失敗する可能性があります。

- 8** リリースの更新またはクライアントパッケージの .rpm をマウント済みの共有に正常にコピーした後、共有ディレクトリをマップ解除するか、マウント解除します。

- 9** アプライアンスで次のコマンドを入力して NFS 共有と CIFS 共有を閉じます。

```
Main_Menu > Manage > Software > Share Close
```

共有を閉じる前に次のいずれかのコマンドを実行すると、ダウンロードしたリリース更新またはクライアントパッケージは共有ディレクトリの場所から適切な場所に移動します。ここで、NFS 共有と CIFS 共有がクローズになっていることを確認するには、Share Close コマンドを実行する必要があります。

メモ: 2.6.1 または 2.6.1.x からのアップグレードの場合、Symantec Critical System Protection (SCSP) のスキャンが完了しなければ、リリース更新やクライアントパッケージを検証または移動できません。2.7.1 からアップグレードの場合、Symantec Data Center Security (SDCS) のスキャンが完了しなければ、リリース更新またはクライアントパッケージを検証または移動できません

- List Version
 - List Details All
 - List Details Base
 - Share Open
 - Share Close
- 10 アプライアンスで利用可能なリリースの更新またはクライアントパッケージを一覧表示するには、次のコマンドを入力して、ダウンロードファイルの名前を記録します。

Main_Menu > Manage > Software > List Downloaded

このコマンドを実行すると、リリースの更新またはクライアントパッケージを検証し、共有ディレクトリから適切な場所に移します。この移動が行われたことは通知されません。

p.21 の「[NetBackup アプライアンス Web コンソールを使用した NetBackup Appliance へのソフトウェア更新のダウンロード](#)」を参照してください。

NetBackup アプライアンス Web コンソールを使用して NetBackup Appliance バージョン 2.7.x のインストール

アップグレード前チェックリストの項目を実行した後、次の手順でアプライアンスのアップグレードを開始します。

NetBackup アプライアンス Web コンソールを使用してダウンロードしたリリース更新をインストールするには

- 1 次のアップグレード前のタスクが実行されていることを確認します。
 - すべてのジョブが停止または一時停止され、SLP も一時停止されている。
 - Support > Test Software コマンドが実行され、Pass の結果が返されている。
 - すべての必要な RHEL プラグインパッケージが適切な場所にコピーされている。

p.15 の「[NetBackup Appliance バージョン 2.7.2 をアップグレードするためのアップグレード前のタスク](#)」を参照してください。
- 2 Web ブラウザを開いて、NetBackup アプライアンス Web コンソールを使ってアプライアンスにログインします。
- 3 [管理 (Manage)]、[ソフトウェアの更新 (Software updates)]の順に選択します。

- 4 [ソフトウェア更新 (Software Updates)]ページの[ダウンロードしたソフトウェア更新 (Downloaded Software Updates)]テーブルで適切なソフトウェア更新を探します。
 - インストールするソフトウェアの更新がテーブルにあれば、次の手順に進みます。
 - インストールするソフトウェアの更新がテーブルになければ、次のトピックを参照してください。
 - p.21 の「[NetBackup アプライアンス Web コンソールを使用した NetBackup Appliance へのソフトウェア更新のダウンロード](#)」を参照してください。
 - p.21 の「[NetBackup アプライアンスへのソフトウェア更新の直接ダウンロード](#)」を参照してください。
 - p.22 の「[クライアント共有を使用した NetBackup Appliance へのソフトウェア更新のダウンロード](#)」を参照してください。

- 5 インストールするソフトウェアの更新に関連付けられているチェックボックスにチェックマークを付け、[インストール (Install)]をクリックします。

[インストール (Install)]をクリックすると、次のイベントが起きます。

 - [ソフトウェアの更新 (Software Updates)]ページが更新され、アップグレードするサーバー (マスターまたはメディア) を示すテーブルが表示されます。表にはソフトウェアの更新の名前やバージョンも表示されます。

メモ: 複数のメディアサーバーをアップグレードする計画の場合は、各メディアサーバーについてこのアップグレードの手順を実行する必要があります。

- 対話型の、インストール前の検査ウィンドウが表示されます。インストール前の質問に回答を入力する必要があります。その後、[完了 (Finish)]を選択してインストール前の検査ウィンドウを閉じます。
- 6 [ダウンロードしたソフトウェア更新 (Downloaded Software Updates)]テーブルで[次へ (Next)]をクリックします。
 - 7 [確認 (Confirm)]ポップアップウィンドウには、アップグレードするサーバー (マスターまたはメディア) が表示されます。

この情報が正しい場合は、[次へ (Next)]をクリックします。情報が正しくない場合は、[キャンセル (Cancel)]をクリックします。

- 8 [次へ (Next)]をクリックすると、[確認が必要です (Confirmation Required)]のポップアップウィンドウが表示されます。管理者は、ソフトウェアのインストールとアップグレードが始まる前の最後の手順としてユーザー名とパスワードを入力する必要があります。クレデンシャルを入力した後、[確認 (Confirm)]をクリックします。インストールを停止または終了する場合は、[キャンセル (Cancel)]をクリックします。

[ソフトウェア更新 (Software Updates)]ページは、[ダウンロードしたソフトウェア更新(Downloaded Software Updates)]テーブルに表示されている情報を更新して表示します。このテーブルには、プリフライトチェックで始まるアップグレードの進捗状況が表示されます。

- 9 プリフライトチェックを監視し、**Check failed** メッセージが表示されていないか確認します。以下のように処理します。

- **Check failed** メッセージが表示されなければ、アップグレードを開始します。次の手順に進んでください。
- **Check failed** メッセージが表示されたら、アップグレードはできません。報告された失敗を解決し、アップグレードスクリプトを再度実行すると、プリフライトチェックは失敗が解決されたかどうかを検証します。
- **Check failed** メッセージで RHEL バージョンのサードパーティプラグインが見つからないと表示された場合は、プラグインを適切なベンダーから入手する必要があります。インストールに関する詳細は、次のトピックを参照してください：
[p.15 の「NetBackup Appliance バージョン 2.7.2 をアップグレードするためのアップグレード前のタスク」](#)を参照してください。

- 10 アップグレードプロセス中は、システムが複数回再起動することがあります。最初の再起動の後、再起動プロセスが完了するまでは **NetBackup アプライアンス Web コンソール**とサーバーへの **SSH** ベースの接続は利用できません。アプライアンスの構成が複雑なときは、この状態が 2 時間以上続く場合があります。この間、アプライアンスを再起動しないように注意してください。シマンテック社のリモート管理インターフェース (IPMI) を使うと、システムの再起動の状態を表示できます。さらに、/log の下にログを表示したり、アップグレードプロセス完了時にアプライアンスが電子メールを送信するまで待機することもできます。

- 11 サーバーの状態が 100% に達した後、アップグレードが成功したかどうかテーブルのタイトル行の情報に表示されます。アップグレードが成功したかどうかに応じて、次の状態が発生します。

- [アプライアンスのバージョンは <対象のバージョン> で、アップグレード状態にありません。(The appliance version is <the target version> and not in upgrade state.)] 目標の(新しい)バージョンが表示されていれば、アップグレードは成功です。[完了 (Finish)]をクリックしてプロセスを完了します。
- [アプライアンスのバージョンは <元のバージョン> で、アップグレード状態にありません。(The appliance version is <the original version> and not in upgrade state.)] 元の(またはアップグレード前の)バージョンが表示されていれば、アップ

グレードが失敗して自動ロールバックが実行されました。ロールバックによって、サーバーは元のバージョンに戻ります。

- [PRE_UPGRADE チェックポイントの作成に失敗しました。この問題を最初に解決してください (Failed to create the PRE_UPGRADE checkpoint, please resolve this issue first)]

アップグレード操作が始まる前には、チェックポイント作成プロセスが自動的に行われます。このチェックポイントは、アップグレードが失敗した場合にサーバーのロールバックに使われます。このエラーメッセージが表示された場合は、チェックポイントの作成に失敗し、アップグレード操作が行われなかったことを示しています。アップグレードを再度試みる前に、問題の原因を特定して解決する必要があります。

- [<nodename>でセルフテストが失敗しました。この問題を最初に解決してください (Self-Test failed on <nodename>, please resolve the issue first)]セルフテスト操作は、アップグレードが完了する前に自動的に実行されます。セルフテストが失敗した場合、NetBackup Appliance シェルメニューを使用して問題を調査した後に、ロールバックするか、セルフテストを再実行するかを確認されます。

12 バックアップ環境に SAN クライアントコンピュータが含まれる場合にのみ、このステップを完了してください。

ファイバーチャネル (FC) ポートは、SAN クライアントコンピュータがファイバートランスポート (FT) デバイスに再接続することを許可するために再スキャンする必要があります。再スキャンはアプライアンスの NetBackup CLI ビューから実行する必要があります。

FC ポートを再スキャンするには

- 次のコマンドを入力して NetBackup のユーザーアカウントの一覧を表示します。
Manage > NetBackupCLI > List
- 一覧表示された NetBackup ユーザーのいずれかとしてこのアプライアンスにログオンします。
- 次のコマンドを実行して FC ポートを再スキャンします。
nbftconfig -rescanallclients
- まだ動作しない SAN クライアントがある場合は、それらのクライアントのそれぞれについて、次のコマンドを示されている順序で実行します。

UNIX クライアントの場合:

```
/usr/opensv/netbackup/bin/bp.kill_all
/usr/opensv/netbackup/bin/bp.start_all
```

Windows クライアントの場合:

```
<install_path>%NetBackup%bin%bpdown
<install_path>%NetBackup%bin%bpup
```

- まだ動作しない SAN クライアントがある場合は、OS レベルで SCSI デバイスの更新を手動で開始する必要があります。更新操作を実行する方法は、クライアントが実行しているオペレーティングシステムによって異なります。更新が完了したら、再度 `nbftconfig -rescanallclients` コマンドの実行を試みます。
- まだ動作しない SAN クライアントがある場合は、それらのクライアントを再起動します。

メモ: まだ動作しない SLES 10 または SLES 11 SAN クライアントがある場合は、ベリタスはそれらのクライアントの QLogic ドライバをアップグレードすることをお勧めします。影響を受ける SLES 10 クライアントはバージョン 8.04.00.06.10.3-K に、影響を受ける SLES 11 クライアントはバージョン 8.04.00.06.11.1 にアップグレードします。

NetBackup Appliance シェルメニューを使用して NetBackup Appliance バージョン 2.7.x のインストール

アップグレード前チェックリストの項目を実行した後、次の手順でアプライアンスのアップグレードを開始します。

NetBackup Appliance シェルメニューを使用してダウンロードしたリリース更新をインストールするには

- 1 次のアップグレード前のタスクが既に実行されていることを確認します。
 - すべてのジョブが停止または一時停止され、SLP も一時停止されている。
 - `Support > Test Software` コマンドが実行され、**Pass** の結果が返されている。
 - すべての必要な RHEL プラグインパッケージが適切な場所にコピーされている。
- p.15 の「[NetBackup Appliance バージョン 2.7.2 をアップグレードするためのアップグレード前のタスク](#)」を参照してください。
- 2 **NetBackup Appliance** シェルメニューを使用して SSH セッションを開いてアプライアンスにログオンします。
 - 3 ソフトウェアリリース更新をインストールするには、次のコマンドを実行します。

```
Main_Menu > Manage > Software > Install patch_name
```

`patch_name` はインストールするリリースの更新の名前です。このパッチ名がインストールするパッチであることを確認します。

- 4 プリフライトチェックを監視し、**Check failed** メッセージが表示されていないか確認します。以下のように処理します。
- **Check failed** メッセージが表示されなければ、アップグレードを開始するための次の手順に進みます。
 - **Check failed** メッセージが表示されたら、アップグレードはできません。報告された失敗を解決し、アップグレードスクリプトを再度実行すると、プリフライトチェックは失敗が解決されたかどうかを検証します。
 - **Check failed** メッセージで RHEL バージョンのサードパーティプラグインが見つからないと表示された場合は、プラグインを適切なベンダーから入手する必要があります。インストールに関する詳細は、次のトピックを参照してください：
[p.15 の「NetBackup Appliance バージョン 2.7.2 をアップグレードするためのアップグレード前のタスク」](#)を参照してください。

- 5 画面に表示されるアップグレードの進捗状況を参照して、予定完了時間を確認します。アップグレードの現在の状態を表示するには、次のコマンドを入力します。

```
Main_Menu > Manage > Software > UpgradeStatus
```

- 6 アップグレード中はアプライアンスが強制的に複数回再起動されることがあります。アップグレードが完了して、ディスクプールがオンラインに戻ったら、アプライアンスは自己診断テストを実行します。テスト結果については、次のファイルを参照してください。

```
/log/selftest_report_<appliance_serial>_<timedate>.txt
```

SMTP が構成されている場合は、セルフテストの結果が含まれた電子メール通知が送信されます。

メモ: 2.6.1 または 2.6.1.x からアップグレードする場合、システムがアップグレードプロセス中に複数回再起動する場合があります。最初の再起動の後、再起動プロセスが完了するまでは **NetBackup** アプライアンス Web コンソールとサーバーへの **SSH** ベースの接続は利用できません。アプライアンスの構成が複雑なときは、この状態が 2 時間以上続く場合があります。この間、アプライアンスを再起動しないように注意してください。シマンテック社のリモート管理インターフェース (IPMI) を使うと、システムの再起動の状態を表示できます。さらに、/log の下にログを表示したり、アップグレードプロセス完了時にアプライアンスが電子メールを送信するまで待機することもできます。

- 7 バックアップ環境に **SAN** クライアントコンピュータが含まれる場合にのみ、このステップを完了してください。

ファイバーチャネル (FC) ポートは、**SAN** クライアントコンピュータがファイバートランスポート (FT) デバイスに再接続することを許可するために再スキャンする必要があります。

ります。再スキャンはアプライアンスの **NetBackup CLI** ビューから実行する必要があります。

FC ポートを再スキャンするには

- 次のコマンドを入力して **NetBackup** のユーザーアカウントの一覧を表示します。
`Manage > NetBackupCLI > List`
- 一覧表示された **NetBackup** ユーザーのいずれかとしてこのアプライアンスにログオンします。
- 次のコマンドを実行して **FC** ポートを再スキャンします。
`nbftconfig -rescanallclients`
- まだ動作しない **SAN** クライアントがある場合は、それらのクライアントのそれぞれについて、次のコマンドを示されている順序で実行します。
UNIX クライアントの場合:
`/usr/opensv/netbackup/bin/bp.kill_all`
`/usr/opensv/netbackup/bin/bp.start_all`
Windows クライアントの場合:
`<install_path>%NetBackup%bin%bpdown`
`<install_path>%NetBackup%bin%bpup`
- まだ動作しない **SAN** クライアントがある場合、**OS** レベルで **SCSI** デバイスの更新を手動で開始する必要があります。更新方法はクライアントのオペレーティングシステムによって決まります。更新が完了したら、再度 `nbftconfig -rescanallclients` コマンドの実行を試みます。
- まだ動作しない **SAN** クライアントがある場合は、それらのクライアントを再起動します。

メモ: まだ動作しない **SLES 10** または **SLES 11 SAN** クライアントがある場合、ベリタスはそれらのクライアントの **QLogic** ドライバをアップグレードすることをお勧めします。影響を受ける **SLES 10** クライアントはバージョン **8.04.00.06.10.3-K** に、影響を受ける **SLES 11** クライアントはバージョン **8.04.00.06.11.1** にアップグレードします。

2.7.2 のアップグレード後のタスク

アップグレードプロセスが問題なく完了した後、必要に応じて環境に対して次のタスクを実行します。

- **SDCS** モード

バージョン 2.6.1 または 2.6.1.x からのアップグレード後、Symantec Critical System Protection (SCSP) の機能は、Symantec Data Center Security (SDCS) に名前が変更されます。この機能は非管理モードに自動的に設定されています(デフォルト)。アップグレード前に SCSP 機能がマネージドモードに設定されている場合は、一括管理された警告やレポートを引き続き受信するために SDCS をマネージドモードに変更する必要があります。この機能を管理モードに設定するには、アプライアンスを SDCS サーバーに接続する必要があります。詳しくは、以下のドキュメントを参照してください。

『NetBackup 52xx and 5330 アプライアンス管理者ガイド』

『NetBackup 52xx and 5330 アプライアンスセキュリティガイド』

- バックアップの再起動

アプライアンスマスターサーバーのアップグレードの場合は、アップグレード前に停止または一時停止されたすべてのジョブとストレージライフサイクルポリシー (SLP) を再起動します。

アプライアンスメディアサーバーのアップグレードの場合は、すべてのアプライアンスメディアサーバーをアップグレードした後、アップグレード前に停止されたすべてのジョブを再起動します。

N

- NetBackup Appliance シェルメニューから更新をインストール
 - バージョン 2.7.x 30
- NetBackup アプライアンス Web コンソールから更新をインストール
 - バージョン 2.7.x 26

S

- SDCS モード
 - アップグレード後のタスク 32

あ

- アップグレード
 - アップグレード前のタスク 15
 - サポートされているアップグレードパス 9
 - バージョン 2.7.1 および RHEL オペレーティングシステム 8
- アップグレード中のアプライアンスの動作 10
- アップグレード中の変更 11
- アップグレードのガイドライン 13
- アップグレードの推定所要時間 12
- アップグレード後のタスク 11
 - SDCS モード 32
- アップグレード前のタスク
 - RHEL サードパーティプラグインを入手する 18
 - 以前にダウンロードしたパッケージを削除する 16
 - バージョン 2.6.0.1 のクライアントパッケージの削除 17
 - バージョン 2.7.x のアップグレード 15
 - バックアップを停止してセルフテストを実行する 15
 - ファイアウォール規則を更新する 19
- アプライアンスアップグレード
 - ガイドラインおよびベストプラクティス 12
- アプライアンスのサーバーまたはクライアントパッケージ
 - 直接ダウンロード 21

か

- ガイドラインおよびベストプラクティス
 - アプライアンスアップグレード 12

- クライアント共有
 - ソフトウェア更新のダウンロード 22

さ

- ソフトウェア更新
 - NetBackup アプライアンス Web コンソールからのダウンロード 21
 - ソフトウェア更新のダウンロード
 - NetBackup アプライアンス Web コンソールから 21
 - クライアント共有の使用 22

た

- ダウンロード方法
 - リリース更新 20
- 直接ダウンロード
 - アプライアンスのサーバーまたはクライアントパッケージ 21

は

- バージョン 2.7.1 へのアップグレード
 - RHEL オペレーティングシステム 8
- バージョン 2.7.x
 - NetBackup Appliance シェルメニューから更新をインストール 30
 - NetBackup アプライアンス Web コンソールから更新をインストール 26
- バージョン 2.7.x へのアップグレード
 - RHEL 用のサードパーティ製プラグイン 10
- プリフライトチェック
 - アップグレード前 9